

# 2020 年度 事 業 報 告 書

2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 ホロコースト教育資料センター

## 【1】事業の成果

一人ひとりの命と人権を尊重する心を育み、寛容で公正な社会を築くことを目指して、第二次世界大戦時のホロコースト史を教材とした教育事業を実施した。

グローバル化にともない、多様な文化や人との関わりが増えていく一方で、排他主義や狭義の愛国主義の考え方方が広がる傾向があり、街角のヘイトスピーチやネット上のホロコースト否定論は日本の社会にも存在している。第二次世界大戦時のアジアでの日本の加害の歴史に関する歴史修正主義や否定論が、ヘイトスピーチや差別、偏見を助長する側面があり、また、2019 年末に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う差別や偏見の広がりも見られる。このような危機感を持ちながら、当 NPO では、設立以来の事業目的に沿って、歴史の伝承だけでなく、自らの社会をふりかえり、差別や偏見、異なるものを受け入れることができない人間の弱さを考える教育の機会をつくりだすことを目指した。

コロナ禍の中で、学校訪問授業の実施が難しい時期があったが、オンラインに切り替えて、事業を継続することができた。学校訪問授業は 36 回、オンラインでの主催事業は 50 回、計 86 回の実施を通して、延べ 9,313 名に学習の機会を届けた。

オンラインでは、講演形式だけでなく、問い合わせ(Question Formulation Technique)を新しく活用し、対話を促しながら、思考を深めるアクティブラーニングを実施した。ヨーロッパスタディツアーの実施ができないなかで、写真や動画を活用した「オンライン歴史さんぽ」シリーズも新たに教材として開発することができた。

特に、コロナ禍でドイツの公的文化機関ゲーテインスティトゥートとドイツ外務省によって設立された「国際支援基金」の助成をいただき、オンライン講座「記憶の文化を育む」を開催できることは次世代の育成にもつながる有意義な取り組みとなった。計 7 回の講座に国内外 20 名のアーティストや歴史家を招き、35 都市から 948 名の参加者を迎えた。講師から学ぶだけでなく、若者を中心としたふりかえりの対話の場をつくることができたこと、そして 13 名の 20 代の言葉を映像で記録に残すことができた。これらの取り組みを通して、大学生有志が実行委員会を組織し、今年 8 月に『「わたし」と「れきし』』展の開催を予定している。自らの手で歴史から考え、対話する場を作りたいという若者たちの自発的な行動を促すきっかけにすることができた。

コロナ禍で休止していたインターン生の受け入れも、オンラインでの実施を開始し、大学生 3 名を受け入れて、NPO のスタッフ体験や事業運営の体験の場を提供した。

## 【2】事業の実施に関する事項

### 1 教材の制作及び提供事業（展示パネルの貸出）

展示パネルの貸出は昨年度から休止し、視聴覚資料の貸出もテレワークのため実施しなかった。

### 2 書籍・資料などの収集及び提供事業

関連図書と映像については、インターネット図書館「ブクログ」(<http://booklog.jp/users/therc>)を利用して情報提供を行った。登録数は1,381冊。

### 3 講演会、セミナー等の開催事業

#### 3-1. 訪問授業・講演会

全国の小・中学校、大学、自治体より依頼を受けて合計36回実施した。新型コロナウィルス感染防止のため、実施がキャンセルとなったのは高校1校

2020/7/9	神戸学院大学	大学	オンライン	社会防災の基礎Ⅰ
2020/7/16	早稲田大学	大学	オンライン	文化構想学部ゼミ
2020/10/7	セントヨゼフ女子学園	中学校	オンライン	教員研修、問い合わせワークショップ
2020/10/21	筑波大学	大学	オンライン	大学院人間総合科学学術院 教育学学位プログラム
2020/10/22	名古屋外国語大学	大学	オンライン	人権学習、シティズンシップ教育
2020/10/28	横浜国立大学	大学	オンライン	問い合わせワークショップ
2020/11/3	人道の港 敦賀ムゼウム	自治体	対面	オープン記念講演ネルディスカッション
2020/11/10	大和市立中央林間小学校	小学校	対面	ハンナのかばん
2020/11/14	中央区立銀座中学校	中学校	対面	人権学習
2020/11/19	田園調布雙葉小学校	小学校	対面	読書活動、平和教育
2020/12/14	厚木市立戸田小学校	小学校	対面	ハンナのかばん
2020/12/17	セントヨゼフ女子学園	中学校	オンライン	命の大切さを学ぶ、人権学習、国際理解教育
2020/12/21	北区立田端小学校	小学校	対面	6年生ハンナのかばん、5年生杉原千畝
2020/12/23	東京純心女子高校	高校	対面	平和学習
2021/1/14	聖心女子学院	中学校	オンライン	人権学習
2021/1/15	早稲田大学	大学	オンライン	社会構築論系講演会「平和をつくることについて語るときに私たちの語ること」パネル参加
2021/1/16	晃華学園	中学校	対面	ハンナのかばん
2021/1/22	座間市立相模野小学校	小学校	対面	6年生 ハンナのかばん
2021/2/3	Hillcrest Community School	小学校	オンライン	ハンナのかばん
2021/2/9	北九州市立大学	大学	オンライン	人権、平和、アウシュヴィッツからの問い合わせ
2021/2/10	自由学園	小学校	対面	5年生 ハンナのかばん、人権平和、国際理解教育
2021/2/10	自由学園	小学校	対面	6年生 杉原千畝
2021/2/12	光塩女子学院	小学校	対面	5年生倫理の授業で、ハンナのかばん
2021/2/15	北海道教育大学	大学	オンライン	問い合わせワークショップ
2021/2/16	北海道教育大学	大学	オンライン	平和ラボインタビュー
2021/2/18	北海道教育大学	大学	オンライン	記念碑めぐり～ベルリンとアムステルダム
2021/2/24	綾瀬市立北の台中学校	中学校	対面	ハンナのかばん
2021/3/5	清瀬市立清瀬第三小学校	小学校	対面	6年生 杉原千畝
2021/3/5	清瀬市立清瀬第三小学校	小学校	対面	5年生 ハンナのかばん
2021/3/9	千代田区	自治体	対面	ドラ・グリンバーグの物語
2021/3/10	鷺友学園	中学校	対面	2年生と去年延期になった3年生と2回実施
2021/3/12	練馬区立開進第三中学校	中学校	対面	卒業前の3年生を対象に
2021/3/16	世田谷区立梅丘中学校	中学校	対面	問い合わせとハンナのかばん
2021/3/24	横浜市立霧が丘中学校	中学校	対面	ハンナのかばん、命の大切さ、人権、国際理解教育

### 3-2. NPO の自主事業として開催

#### 3-2-1 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング

開催日時	2020/4/15(水)20:00 – 21:30
経緯	コロナ禍で訪問授業の実施が難しくなったため、初めて zoom を使ってオンラインでトライアルとして実施
内容	対面で行っていた写真ワークショップのオンライン版。対話をしながら思考を深めるアクティブラーニング
講師	石岡史子
参加費	無料
対象	Kokor 理事、知り合いの教員の皆さん、16名
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オンラインでのワークショップ、場所に限定されず、どこに住んでいても参加できるという体験に可能性を感じました。グループディスカッションも有意義で、最近は決まった人達としか話をしていなかったので、写真から考えたこと、皆さんのお話を伺えたことが貴重な体験になりました。</li> <li>●深く考えさせられる内容で、とても有意義な時間でした。色々な場所、年齢の方々と意見を交換できる機会は普段あまり無いので、参加できてとても良かったです！</li> </ul>

#### 3-2-2 読書会&ワークショップ「アンネの日記」

開催日時	2020/4/25(土)20:00 – 21:30
経緯	新型コロナウィルス感染症の拡大に伴う差別や偏見の広がりが見られるなかで、不自由さや息苦しさを感じるときだからこそ、史実を通して、対話し思考する時間をつくりたいと考えた。
内容	コロナ禍の苦しみとホロコーストの史実の比較にならないように配慮しながら、アンネ・フランクの言葉やアムステルダムの記念碑を題材にとりあげて、差別や偏見について学び考える機会を提供した。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はだれでも/17名
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークショップを取り入れた読書会、とても新鮮で勉強になりました。(中略)どのような状況にあっても何か行動し発信しようとしている(Kokoro)に力をいただきました。</li> <li>●「もし、自分だったら」と考えさせられる企画がとてもよかったです。不自由さも多い今の生活のせいか、まだまだ想像できないことばかりだとは思いますがいつもより少し隠れ家に潜むことの不安を間近に考えられたかな？</li> <li>●このような時期に、新たな試みにチャレンジされることに敬意を表します。今回のセミナーを通して、多くのヒントと共に、自分も何か行動に移してみようという気持ちが持てました。</li> </ul>

#### 3-2-3 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング

2020/4/29	2020/4/29(水)①14:00 – 15:30 ②20:00 – 21:30 開催二回
経緯	4月15日のトライアル(3-2-1)を経て実施
内容	ホロコーストの歴史のいくつかの場面を切り取った写真を用いて、対話し、思考を深めるアクティブラーニング
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/計 32名

参加費	無料
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多角的な視野からホロコーストを扱っていただき、自分も視野が広がった思います。</li> <li>●コーディネートが素晴らしく、通信でもストレスフリーでした。</li> <li>●同調圧力に飲み込まれないように、自分のハンドルをちゃんと持ち続けようと思いました。</li> <li>●大変面白いワークショップでした。高校現場でもぜひチャレンジしてみたいと思いました。どうしても虐殺という痛ましい部分に注目しがちですが、普通の私たちの日常と同じ場面からすでにはじまっていたんだというところに注目させている点はとても勉強になりました。</li> <li>●ワークショップの前と後では物事の見方が変わる、大変有意義なワークショップでした。グループに別れて話す時間や聴講者の反応を求める時間などを取っていただき、アクティブラーニングを実感することができました。zoom の勉強会にはいくつか参加してきましたが、一方的なものが多く、今回のようにインテラクティブな要素をふんだんに盛り込んだものは初めてでした。ですがこうした「考える時間」をとることこそ、ホロコーストに向かい合うときに最も重要なことなのだと思います。</li> <li>●ホロコーストについて、「普通の市民が加担した」という今までとは異なる視点を得ることができました。学校でのアプローチに生かしたいと思います。</li> </ul>

### 3-2-4 オンライン歴史さんぽ Memory Walk ベルリン

開催日時	2020/5/3(日)20:00 – 21:30
経緯	2015 年から大学生向けに 10 回、教員向けに 2 回実施したヨーロッパスタディツアーがコロナ禍で実施できなくなつたため、オンラインで実施できるようなプログラムを用意した。ガイドによる現地ライブ中継ではなく、写真や動画を用いて、ベルリンの記念碑を紹介し、対話や思考の時間をつくることを重視した。
内容	ベルリンの街中を紹介しながら、ナチ時代の記念碑に注目し、「記憶の文化」について学び考える。クイズ、質疑応答を通して対話の時間も作る。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
ゲスト	岡裕人さん 『忘却に抵抗するドイツ』著者、フランクフルト 瀧元深祈さん ベルリン自由大学
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/26 名
参加費	1,000 円、学生無料
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いま若い人たちは語りたいと思っていると思います。若い人たちが集まって、思いっきり語り合えるような会もぜひ企画してあげてください。こういうときこそ、哲学対話が必要な気がしています。</li> <li>●臨場感がありました。またの機会を楽しみにしています。</li> <li>●展開が自然で、話しやすい感じがしました。大変良かったです。このように、色々な人と話せるのは、良かったです。</li> <li>●zoom を使った講演会、という形式は初めての体験でしたが、講演あり、グループディスカッションあり、また国内、海外各地からの参加ありで、バックグラウンドの異なる方々がら一度にお話を伺う機会を持てたことはとても有益でした。</li> <li>●実際に行ったような気持ちで街を観ることができました。説明量・方法も適切で、とても面白くて参考になりました。</li> </ul>

### 3-2-5 小学生ワークショップ「アンネの日記」

開催日時	2020/5/5(火・祝)
経緯	4月 25 日に一般向けで開催したワークショップを、子どもの日にあわせて、小学生対象で実施

内容	コロナ禍の苦しみとホロコーストの史実の比較にならないよう配慮しながら、アンネ・フランクの言葉やアムステルダムの記念碑を題材にとりあげて、自由とは何か、差別、偏見のテーマについて考え方対話する
会場	オンライン zoom ミーティング
参加費	500 円
対象/参加人数	小学生限定、7 人

### 3-2-6 戦後 75 年ダイアローグ

開催日時	2020/5/15(金)20:00 – 22:00
経緯	戦後 75 年の節目に企画されていた様々な行事が各地でキャンセルとなつたが、対話の機会をつくりたいと考え、平和・戦争関連団体と共に実施
内容	日本とドイツの記憶の文化についてのフリートーク
会場	オンライン zoom ミーティング
対象/参加人数	Kokoro 会員および平和関連博物館関係者/30 名

### 3-2-7 大学生協ヨーロッパピーススタディツアー説明会

開催日時	2020/5/16(土)20:00 – 21:00
経緯	2015 年から実施している、大学生協ヨーロッパピーススタディツアーの説明会
内容	過去のツアー行程をたどりながら、ポーランドやドイツの「記憶の文化」を紹介する
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	無料
対象/参加人数	大学生/66 名

### 3-2-8 大学生ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」

開催日時	2020/5/24(日)20:00 – 21:40
経緯	コロナ禍で先が見えないなか、大学生たちが同世代同士で対話する機会をつくりたいと考え実施した
内容	写真を見ながら、対話し、思考を深めるワークショップ
講師	石岡史子
参加費	無料
参加者	大学生/26 名
参加者アンケート より	<ul style="list-style-type: none"> <li>●進行もグループもとても話しやすくいい会でした。</li> <li>●今までアウシュビツツについて加害者はよく残酷な事を平気でやっていたなと思っていたが、実は自分達もファストファッショやバナナ、チョコなどの問題と彼ら加害者と重なる部分があるなと思った。笑顔でお洒落したりおいしいものを食べている私達の笑顔の裏側で悲惨なことが起きていることに気付かされた</li> <li>●自分で考えながら学ぶことができたことがよかったです。</li> <li>●他の参加者の方とお話しながら参加出来て良かったです。ドイツの博物館、行ってみたい…！</li> </ul>

### 3-2-9 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 3 回

開催日時	2020/5/30(日)20:00 – 21:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子

参加費	1,000 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/16 名

### 3-2-10 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 4 回

開催日時	2020/5/31(日)14:00 – 15:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/8 名

### 3-2-11 Memory walk ベルリン Part 2 ~ミュージアム編

開催日時	2020/6/5(金)20:00 – 21:45
内容	5/3 の開催(3-2-4 参照)に続き、ベルリンのナチ時代およびホロコースト関連のミュージアムを 3 つ紹介しながら「記憶の文化」について学び考える
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/28 名
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> <li>●興味がある者にとっては盛り沢山でしたのでとても満足しました。1000 円では安い?! のではと思いました！</li> <li>●ドイツは過去の歴史を認めて、それを忘れないように取り組んでいてすごいとずっと思っていましたが、そこに至るまでには絶余曲折があり、ようやくこのような博物館ができたのだと知りました。</li> <li>●単に観光で行くのでは分からぬ（そもそも行くことが難しい）、3 つのミュージアムを通して、ドイツが普通の人たちや権力を持つ立場の公務員などひとりひとりの責任を問いかける学びの場を設けていることがよく理解できました。</li> </ul>

### 3-2-12 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 5 回

開催日時	2020/6/6(土)20:00 – 21:30
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/6 名
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他の人の視点を聞くことは大変参考になりました。また、なによりオンライン講座は大変勉強になり感謝しています。「なぜ？」に答えを求め続けることが大事なことだと改めて感じたしだいです。</li> <li>●内容はとても素晴らしいものでした。歴史を知ることを通して、今を生きる自分や世の中の在り方を考えるという視点が一貫していて、子どもたちへの教育もこれこそ大事なんだと再確認しました。お陰様で主体的・対話的で深い学びとなりました。</li> </ul>

### 3-2-13 オンライン歴史さんぽ～アムステルダム編

開催日時	2020/6/12(金)20:00 – 21:30
経緯	アンネ・フランク生誕記念日にあわせて、オンライン歴史さんぽシリーズとのアムステルダム編として開催
内容	アムステルダムの街中を写真や動画で紹介しながら、アンネ・フランクやナチ時代の記念碑をたどる。日本にゆかりのある記念碑や抵抗記念館も。ホロ

	コーストの歴史がオランダではどのように記憶されているかを学び考える。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/37 名
参加者アンケート より	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幅広い年齢層と地域の方と会えて楽しかった。</li> <li>●アムステルダムの美しい街並みの中に、戦争の記録が様々なかたちで残されており、現地に行きたいという思いを再確認いたしました。日本でも今一度、負の記憶について、加害・被害の両面からアーカイブの仕方を見直すべきだと感じました。</li> <li>●最初の問い合わせ「なぜアンネは有名なのか」がすばらしい！あの問い合わせながら、時と場所を超えてアムステルダムを歩いているようでした。</li> <li>●歴史の記憶と共に、次世代への継承についての取り組みを知ることができた。</li> <li>●歴史を過去の出来事とだけ見るのでなく、これから生き方、在り方を考えるきっかけとしなければならないことがよく分かったひとときでした。</li> </ul>

### 3-2-14 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 6 回

開催日時	2020/6/19(金)20:00 – 21:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/11 名

### 3-2-15 戦後 75 年ダイアローグ 第 2 回

開催日時	2020/6/20(土)20:00 -
内容	3-2-6 の第 2 回目
会場	オンライン zoom ミーティング
参加費	無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および平和関連博物館関係者/30 名

### 3-2-16 オンライン歴史さんぽ～ベルリン編 開催第 2 回

開催日時	2020/6/26(金)20:00 – 21:45
内容	3-2-4 の第 2 回目
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/25 名
参加者アンケート より	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史の「記憶」の仕方について、新しい視点をいただきました。</li> <li>●つまづきの石に反対する人の意見を想像するというワークも、新たな気づきがあったと思います。</li> <li>●日本でもきちんと議論ができるようになればと色々考えさせられました。</li> <li>●問題意識をもって生きることの大切さを学ぶことができました。</li> </ul>

### 3-2-17 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 7 回

開催日時	2020/6/28(日)14:00 – 15:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング

講師	石岡史子
参加費	1,000 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/7名
参加者アンケート より	<ul style="list-style-type: none"> <li>●たいへん興味深く刺激的だった。また参加したい。</li> <li>●細やかな配慮があって、終始安心して参加することができました。内容もよく、教師をされている方が子どもたちとこのように学べたら互いに深まるだろうと感じました。そして、私自身、また現在に引き寄せて「自分だったらどうするか」と問うい機会となりました。</li> <li>●発言の誘導を指名してください、全員が意見を言えたことで、充実しました。画面を通してなので、逆に他人の目を意識せず述べることができたかもしれません。参加しやすかったです。</li> </ul>

### 3-2-18 オンライン歴史さんぽ～アムステルダム編 開催第2回

開催日時	2020/7/17(金)20:00 – 21:45
内容	3-2-13 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/30名
参加者アンケート より	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実際に町歩きをしているかのように工夫して説明をしてくださって、想像していましたよりも遥かに楽しめました。</li> <li>●アンネがそこで生きていたんだ、ということが実感できました。</li> <li>●アンネの隠れ家だけでなく、ユダヤ人迫害が始まる前に住んでいた家や、ホロコーストが始まつた頃のこと、慰靈塔とレジスタンスマージュアムのことも知ることができます。もっと知りたい、また学んでみたいと思いました。とても充実したひとときでした。</li> <li>●初体験でしたので少し緊張をしましたが、柔らかい誘導と内容が興味がありまして参加できましたことに感謝しております。</li> <li>●動画、スライド等の情報もたくさんあってとても分かりやすかったです。</li> </ul>

### 3-2-19 オンライン歴史さんぽ～ベルリン編 Part 2 開催第2回

開催日時	2020/7/18(土)20:00 – 21:45
内容	3-2-11 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/22名
参加者アンケート より	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一つ一つの博物館について、設立経緯も含めじっくり聞くことができたので大変勉強になりました。</li> <li>●色々な場所で、多くの人たちが議論を重ねたからこそできた新しい遺産だと思います。更新する大切さにも気付きました。日本のもっと多くの人たちともシェアしたいと思いました。</li> <li>●途中でクイズや休憩があるのはよかったです。</li> <li>●とても分かりやすく引き込まれる内容でした。改めて知らないことがいっぱいあると感じました。小グループトークもよかったです。</li> <li>●コロナの状況下で、実際に現地へ行っているようで、楽しく学べました。</li> <li>●参加者の人数もちょうどよく、アットホームな雰囲気で、参加しやすかったです。またこのようなイベントを開催していただきたいです！</li> </ul>

### 3-2-20 ドイツ国際平和村を訪ねてみませんか

開催日時	2020/7/19(日)14:30 – 16:30
経緯	戦後 75 周年の節目にドイツ国際平和村訪問を含むドイツスタディツアーを計画していたが、新型コロナ感染症拡大により延期となった。そのためオンラインで学習の機会を計画した。
内容	紛争地域で傷つき、自国では十分な治療を受けられない子どもたちを連れてきて治療し、治ったら母国へ帰す「援助飛行」という活動を行っている NGO 「ドイツ国際平和村」について、「ドイツ平和村をサポートする会」代表の秋山典子さんから学ぶ。秋山さんご自身が平和村の支援を始めたきっかけや、平和村が目指していることなどについて詳しく話を聞くことができた。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	秋本典子さん、「ドイツ平和村をサポートする会」
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生 500 円
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/30 名
参加者アンケート より	<ul style="list-style-type: none"> <li>●秋山さんの情熱が伝わってきました。たえこさんと岡さんのおかげでより多角的なセッションになりましたね。大学生の存在も大きかったように感じます。</li> <li>●実際の講演会に行くのと同じくらい、ドイツ国際平和村のことがよくわかり、またそれに関わる人の熱意もひしひしと伝わってきました。私もこの場所の存在について、周りの人に伝えています。良い企画をありがとうございました。</li> <li>●秋山さんが 57 歳でボランティアに旅立たれた決意と、その後今もサポートする会を立ち上げ伝え続けている姿に感動しました。参加者の皆様も多彩な顔ぶれで本当にいい会でした。</li> </ul>

### 3-2-21 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 8 回

開催日時	2020/7/25(土)20:00 – 21:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/13 名
参加者アンケート より	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホロコーストに至るプロセスを、何気ない日常生活を写した 4 枚の写真を深く読み込むことで、理解するという試みは非常にインパクトがあり、教育手法としても大変参考になりました。また、ホロコーストに至る過程の中で起きてくる幾つかの事柄が、他の差別問題にも見られる（関連する）ことも大きな発見でした。</li> <li>●アクティブラーニング形式で、他の参加者の方の意見から気づくことも多かったです。解説もあり、発言のハードルがそれほど高くないので、あまり詳しくなくとも気軽に参加できる雰囲気がとても良いと思いました。</li> </ul>

### 3-2-22 読書会『忘却に抵抗するドイツ』著者・岡裕人 × 大学生

開催日時	2020/8/9(日)20:00 –
内容	2015 年より毎年『忘却に抵抗するドイツ』著者・岡裕人さんをゲストにお迎えして「記憶の文化」をテーマにした会を開催してきた。今年は、大学生との対談というスタイルで実施した。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	岡裕人さん 『忘却に抵抗するドイツ』著者
パネリスト	(大学生)奥川稀理さん、倉林昌弘さん、深田莉映さん、西山花音さん
参加費	1,000 円、学生無料

対象/参加人数	Kokoro 会員を中心に、興味のある方はどなたでも/77 人
参加者アンケートより	<p>●学生の皆さんそれぞれの視点から話を発展させていく形式が興味深かったです。本日は 8/9 ということもあり日本では共感によって受け継がれる傾向にある戦争の記憶を今後どう扱っていくべきなのかを考えさせられました。</p> <p>●ホロコーストを自分事として捉えることが大事で、考えた事を発信する。対話が大事。当たり前の事を疑う。自分の考えを持つ。という言葉に共鳴しました。</p> <p>●濃密な 2 時間でした。大学生の真摯な態度、高い問題意識に打たれ、一気に熱を帯びた企画になったと思います。オンラインだと 70 名という大勢の参加が可能になるので、戦後 75 年という節目の年への関心の高さも感じました。</p> <p>●学生さんたちが話す言葉一つ一つが自らの体験と結びついて面白かったです。学生の皆さんのがぞれの関心に即した課題設定も、とても勉強になるもので、それに対する岡さん、石岡さんのご意見や参加者の方のメッセージも大変参考になりました。</p>

### 3-2-23 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 9 回

開催日時	2020/8/22(土)20:00 – 21:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/7 名

### 3-2-24 在米・シカゴ高校生カイラ・チャンドラーさん講演会 「ホロコーストを生き延びた祖父と救ってくれた人々」

開催日時	2020/8/23(日)10:30 – 12:00
内容	ホロコースト生還者の祖父の体験を孫のカイラ・チャンドラーさんにご講演いただいた。カイラさんの祖父モリース・チャンドラーさんはポーランドのナシェルスク出身。ある旅行者が 1938 年にこの町に立ち寄った際に撮影した 16 ミリフィルムが数年前に発見され、そこにチャンドラーさんが写っていた。ナチ・ドイツ侵攻の前年までのナシェルスクの人々の幸せな日々を伝える。この貴重な記録映像も上映していただきながら、祖父の体験について講演していただいた。カイラさん自身の平和と人権をテーマにした活動についても紹介していただき、コロナ禍の差別や平和について考える機会とした。
会場	オンライン zoom ミーティング
ゲスト	カイラ・チャンドラーさん、高校生、在米・シカゴ
参加費	1,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/50 人
参加者アンケートより	<p>●私はカイラさんと同じくらいの年齢なのですが、カイラさんの行動力に感動しました。自粛期間などで時間があっても、ダラダラしてしまう癖がついていて積極的に何かをすることがありませんでしたが、カイラさんのように同じ時間でこれだけのことをしている人がいると思うと、自分も頑張ろうと刺激を受けました。</p> <p>●今日のようにオンラインで海の向こうの人々と平和について対話することができ、コロナ禍であっても人とのつながりを創り出し、平和を考えることができるのだと感じました。</p> <p>●グローバル化や少子高齢化が進む今、日本でも移民を受け入れる必要があります。また、難民は絶対に受け入れないといけないと思っています。差別や偏見を乗り越えて、多文化共生を目指すために自分が何ができるのか考えるきっかけになりました。</p>

### 3-2-25 オンライン歴史さんぽ～ワルシャワ編

開催日時	2020/8/28(金)20:00 – 21:30
内容	メモリーウォークシリーズ第4弾はポーランドの首都ワルシャワを取り上げた。第二次世界大戦時の記念碑、世界遺産「リングルブルム・アーカイブ」などを紹介。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000円 応援チケット2,000円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro会員および興味のある方はどなたでも/35人
参加者アンケートより	<p>●ゲットーでの生活の記録を残そうとして、リングルブルム博士とその同僚グループの人達は危険を顧みず記録を収集してミルク缶に入れ地面深くに隠した事に、敬服致しました。</p> <p>●写真や資料が豊富で、ふみこさんのガイドも分かりやすく、実際にワルシャワを訪れているような気分を味わえました。2年前のツアーで訪れた意味がようやく分かっておりして、自分としては理解を深めることができました。</p>

### 3-2-26 オンライン歴史さんぽ～プラハ編

開催日時	2020/8/29(土)20:00 – 21:30
内容	メモリーウォークシリーズの第5弾として、チェコ共和国の首都プラハの街の様々な第二次世界大戦およびホロコーストの記念碑を紹介した。ナチ・ドイツ支配下でチェコのユダヤ系住民の約80,000人が犠牲になった。子どもたちのモニュメントやチェコの抵抗記念館などを案内。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	Kokoro代表 石岡史子
参加費	1,000円、応援チケット2,000円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro会員および興味のある方はどなたでも/35名
参加者アンケートより	<p>●とてもアッホームな雰囲気で良かったです。また最初音声テストを行なってくださいありがとうございました。zoomは初めてだったのでとても助かりました。貴重な機会をありがとうございました。</p> <p>●Googleearthに、zoom、なんて便利な世の中でしょう。実際に行くのが一番ですが、こうして各国の歴史をリアルに学べるのも、今だからこそ。ありがとうございます。</p>

### 3-2-27 杉原千畝と日本にやってきた難民たち～ドラ・グリンバーグの物語

開催日時	2020/9/15(火)20:00 – 21:30
内容	第二次世界大戦時に日本を通過して逃げたユダヤ難民のなかで、Kokoroが直接取材をしたドラ・グリンバーグさんの体験を紹介。1941年に神戸に滞在中のドラさんとポーランドとリトアニアに残る家族との文通の記録が残っている。ご家族からお借りして、手紙を読みながら、生きぬいた命と失われた命の軌跡をたどる。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	Kokoro代表 石岡史子
参加者	Kokoro会員および興味のある方はどなたでも/22名
参加費	1,000円 学生無料
参加者アンケートより	●大勢のユダヤ人を殺したのも人間であり、救ったのもまた人間。教師である私は、ひとりでも多く救う側の人間を育てていきたいと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個々の犠牲者の具体的な話が当時の状況を浮き上がりせ生き生きしく迫ってくる感じがしました。</li> <li>●杉原千畝さんが助けた人達のその後が解り良かったです。</li> </ul>
--	--

### 3-2-28 オンライン歴史さんぽ～クラクフ編

2020/9/19(土)	2020/9/19(土)20:00 – 21:30
内容	メモリーウォークシリーズの第6弾としてポーランドの古都クラクフを取り上げた。中世の街並みが残る世界遺産の旧市街、旧ユダヤ人街のカジミエシュ地区、ゲットー跡地などを紹介。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,500円、寄付チケット2,000円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro会員および興味のある方はどなたでも/27名
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クラクフのホロコーストに関する出来事を、地図と合わせて改めて復習することが出来て大変勉強になりました。採掘場のことや強制収容所について知らなかつたので、もっと調べてみようと思います。</li> <li>●本当に現地にいるような感覚で、歴史を学べました。準備されている資料や写真、構成が分かりやすく、とても素晴らしいツアーでした。</li> <li>●クラクフはユダヤ人にとっても歴史ある街で、今はユダヤ人が少なくなってしまったが、ユダヤ人が其処に住んでいたという証が、街の至るところに有る事に感銘を受けました。</li> </ul>

### 3-2-29 オンライン歴史さんぽ～アムステルダム編 開催第3回

2020/9/25	2020/9/25(金)20:00 – 21:30
内容	3-2-13 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
参加費	1,500円 学生無料
対象/参加人数	Kokoro会員および興味のある方はどなたでも/18名
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> <li>●当時のオランダ人の勇気と、今年の首相の謝罪に感銘を受けた。</li> <li>●ただの観光案内ではなく、アンネまたはホロコーストに関心のある人たちの参加であり、アンネ、ユダヤ民族への思いが詰まったものであったのが良かったと思う</li> <li>●事実や歴史に自分がどう近づくかに加え、ほかの人たちをどう近づけるかという点で、たくさん学ぶことができました。パワポの文字資料や、画像の使い方も見事でした。アンネのことがよく分かりました！</li> </ul>

### 3-2-30 オンライン歴史さんぽ～ミュンヘン編

2020/9/26	2020/9/26(土)20:00 – 21:30
内容	ドイツ第三の都市、バイエルン州の州都ミュンヘンに点在する第二次世界大戦の記念碑を紹介。特にナチ党発祥の地であることを記憶する場所、ナチ体制に抵抗した大学生グループ「白バラ」の記念碑を紹介した。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	Kokoro代表 石岡史子
参加費	1,000円 応援チケット2,000円
対象/参加人数	Kokoro会員および興味のある方はどなたでも/24名
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> <li>●楽しむ、学ぶ、考える、のバランスが絶妙でした！白バラについて、もっと知りたくなりました。</li> <li>●ナチス発祥の地、ドイツ人のナチス抵抗運動(白バラ)について、とっても分かりや</li> </ul>

	すいガイドでした。最後にご紹介くださったドキュメントセンターは、とても興味深いです。コロナ危機の現代との関連も考えることができて、とても有意義でした。
--	---

### 3-2-31 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 10 回

開催日時	2020/9/27(日)14:00 – 16:00
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,500 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/6 名
	<p>●いろんな人と話すことで、ひとりでは気づかないことに気づいたり、触発されて何かを発送できたり、想像できたりと、対話の力を感じた。問い合わせるのもちょっと大変だけれど、後半には、写真を見ながら自然に問い合わせをしていくようになった。問い合わせながら考える力を体感できた。</p> <p>●皆さんと意見を出し合えて楽しかったです。質問する力つけたいと思いました。</p>

### 3-2-32 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む①

転換期にある記憶の継承～ナチ強制収容所記念館の現場から

開催日時	2020/10/17(土)20:00 – 22:00
経緯	ドイツの公的文化機関ゲーテ・インスティトゥートとドイツ外務省の発案により、コロナ禍で影響を受けている EU 圏外の文化・教育団体を支援する「国際支援基金」が創設された。世界各地から 400 件を超える応募があり、140 件が採択される。日本では当 NPO の事業に 22,740 ユーロ(2,796,301 円)の支援をいただけたことになった。戦後 75 年の節目に「記憶の文化を育む」というテーマでオンライン講座を企画し、第一弾として開催。
内容	ベルリン郊外の強制収容所ザクセンハウゼンの記念館でガイドを務める中村美耶さんをお迎えして、ドイツの歴史教育の現場で感じることや、ご自身の研究テーマである収容所内の性暴力とその被害者に対する戦後補償についてご講演いただいた。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	中村美耶さん、ザクセンハウゼン強制収容所記念館ガイド
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/98 名
参加費	1,000 円、学生無料
参加者アンケートより	<p>●声なき声をどのように聞き取るのか、これはホロコーストに限らず虐げられた弱者の声を聞く作業として、現在の問題にもつながると感じました。</p> <p>●現地でガイドをされている方の経験を通してドイツの歴史教育観に触れる、という切り口がすばらしい! 日本の私たちが学ぶべきことだけでなく、世界の流れ、ドイツにおける課題もお話しいただき、俯瞰的(正しい意味で!)な視座を持つことができました。</p> <p>●後半の収容所内の売春宿の話は日本でも戦地で戦意高揚を落とさないために、慰安所を兵隊の基地に作って居たとの事と重なりました。女性の人権や尊厳を踏みにじる行為と。その当事者は差別を世間から受ける事とその当時の辛い記憶を呼び覚ます事の抵抗感で公に出来ない思いも解らなくは無いと思いました。</p> <p>●国境を超えて、ホロコーストの歴史に向き合い、ドイツの人たちにともに考えることを呼びかけるガイドという仕事をされている中村さんのような若い人がいることに感激でした。(中略)2 時間はあっという間でした。またの機会にぜひこの続きを聞かせていただきたいです。また記憶を語りたくない人の記憶をどう伝えるのかという最後の問いかげは心に残りました。</p> <p>●随時チャットで質問を受けながら、という構成がとてもスムーズでよかったです。</p>

	<p>●ガイドの仕事は「未来の人たちが歴史にアクセスする道筋をつくる立場」という表現に共感しました。性暴力の被害者のうち、声をあげることができたのは、ナチに反抗したことが明確でそのプライドを保つことができた人であるという点は印象的でした。訴えることの正当性があってようやく声を上げができるという性被害告発の難しさは、残念ながら普遍的なものだと思いました。「連帯できない人の声は簡単にかき消される」という言葉も心にささりました。”沈黙した歴史”にじっと耳を傾けることも忘れないようにしたいと思います。</p> <p>●日本の岐阜県黒川分村開拓団の性接待のことを思い出しました。黒川分村の遺族会では、満州で終戦を迎えた後、現地の襲撃から団員を守ることをソ連兵に依頼。その見返りに女性を性接待に出すことになりました。そのおかげで、団員の生還率は高かったと言われています。戦後1983年差し出された乙女のために地元神社に「乙女の碑」が建立されました。しかし、その記憶は公に語られませんでした。現在、4代目の遺族会会长は戦後生まれ。その方は、乙女の記憶を伝えなくてはならないと、昨年11月、乙女の碑の碑文を完成されました。碑文には、『私たちがどれだけ辛く悲しい思いをしたか。私たちの犠牲で帰って来られたことを覚えておいてほしい。』と刻まれました。そして、その除幕式では、会長自ら乙女の皆さん（存命の方は出席していました）に謝罪をされています。</p>
--	--

### 3-2-33 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む①ふりかえり対話

開催日時	2020/10/17(土)22:00 -
内容	中村美耶さんのご講演(3-2-32)のあとで、参加者同士で対話をしながらふりかえる時間を設けた。講師の中村さんにもご参加いただき、さらに質疑応答の時間も設けることができた。
会場	オンライン zoom ミーティング
対象/参加人数	3-2-32 の参加者の中から希望者/20名

### 3-2-34 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む②

学校でデモのやりかた教えちゃう！？～演劇で「市民」を育むドイツの取り組み

開催日時	2020/10/28(水)20:00 – 22:30	
経緯	3-2-32 参照	
内容	ドイツの連邦政治教育センターのアンネ・パッフェンホルツさんとペトラ・グリューネさんに、同センターの設立経緯やミッション、三年毎に開催される「政治演劇祭」についてご講演いただいた。政府の機関でありながら、政治的な中立を重んじ、ナチ時代の反省だけでなく、ヘイトスピーチ、経済格差など現代社会の問題解決のために「市民」の育成を目指して、様々な取り組みを展開している。後半は、日本の演劇界を代表するいずみ凜さん、大谷賢治郎さん、田辺素子さんにもコメントをいただいた。この会で触れた、民主主義を演劇で学ぶという方法論は、第5回の朗読劇(3-2-38)の試みに繋げた。	
会場	オンライン zoom ウェビナー	
登壇者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師 アンネ・パッフェンホルツさん、連邦政治教育センター(ベルリン) ペトラ・グリューネさん、連邦政治教育センター(ボン)</li> <li>・パネリスト いずみ凜さん、脚本家 大谷賢治郎さん、演出家 田辺素子さん、劇団銅鑼制作</li> </ul>	
対象/参加人数	Kokoro会員および興味のある方はどなたでも/136名	
参加費	1,000円、学生・舞台芸術関係者無料	日英逐次通訳つき

参加者アンケートより	<p>●すばらしい企画でした。演劇が社会を変えていく可能性を感じました。いまこの国は民主主義が壊されているという危機感を感じています。だからこそ、民主主義の担い手である主権者教育は大切だと思います。その核に演劇がなるのかもしれないと本気で思うことができました。日本から登壇された3人の方の覚悟も伝わってきました。(60代)</p> <p>●面白かった!特に民主主義にも努力を続けなければいけない!というメッセージは、納得できた。さて私達に何ができるか?(70代)</p> <p>●民主主義を守り続けることを国全体で真剣に考え、取り組んでいることを知り、感動しました。同時に、日本ではどうしていかなければならないか、どうありたいかを、真剣に考えていいきたいと思うきっかけになりました。(30代)</p> <p>●ドイツの連邦政治教育センターが国の管轄ではあるけれども政府与党の考えを代弁しなくて良いとのこと。日本での学術会議の任命拒否問題を思い起こしながら羨ましい!なんてまとも!とため息。日々民主主義を強化してきた賜物なのでしょう。(60代)</p> <p>●ドイツの民主主義への取り組み、学校で日本でもやってほしいです。そして常に問い合わせ続けることが必要なんですね。演劇はその助けになるでしょう。最後の全員でのフリートークがもう少し長いといいなと思いました。(60代)</p> <p>●ドイツでの長く誠実な歩みに触れて感動しました。演劇祭、素敵ですね。参加してみたいです。ボイテルスバッハ・コンセンサスが学校教育だけでなく、家庭でも社会でも共有され実践されていることは素晴らしいと思いました。ナチの思想から痛手を負った国民が、自らの思想に変化をもたらすために多様な立場の方たちと様々なアプローチを開発してこられたことで今のドイツがあるのだと思いました。ドイツの取り組みに学んで、小さくとも地域で活かすことができないだろうかと考えています。ドイツと比べて日本国民の政治への無関心などが取り上げられます。そのような日本でも地道に政治へ働きかけ、平和な社会を作ろうと努力している方にもっと目を向けてみることが必要だと感じました。(50代)</p>
------------	--

### 3-2-35 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む③

人はなぜ記念碑をつくるのか ~ホロコーストと第二次世界大戦の記憶のカタチと私たちの未来

開催日時	2020/11/1(日)14:00 – 17:00
経緯	3-2-32 参照
内容	東京大学教授の石田勇治さんに、戦後ドイツの歩みを「記憶の文化」の面から、ルポライターの室田元美さんには日本国内の記念碑についてご講演いただき、記念碑の役割について学びました。
会場	オンライン Youtube ライブ配信
講師	石田勇治さん、東京大学教授 室田元美さん、ルポライター
対象/参加者	Kokoro 会員を中心に興味のある方はどなたでも/141名
参加費	1,000円、学生無料
参加者アンケートより	<p>●ドイツがどのような道を辿って、戦争責任と向き合ってきたのかがわかりました。ドイツが辿ってきた道のりは少なからず、日本の歴史教育に何かヒントを与えてくれているように思えました。日本にも加害の歴史を伝える、記念碑があることを知りました。最後の対話の場で様々な意見が聞けて、歴史教育や記念碑のあり方などを考えるきっかけになりました。(10代)</p> <p>●ドイツの戦時強制労働問題については、日朝の強制連行問題を考える上で、参考になりました。また過去の克服が一筋縄でなかったことが、各政権の戦略まで細かく見ていくことで、よく分かりました。(中略)毎回、10代 20代の参加者が多いとのこと、希望を感じます。(60代)</p> <p>●東京の講座に地方からでも簡単に参加できる仕組みに、改めて感心しております。</p>

	<p>記念碑の有り様について、ドイツと日本、被害と加害、時系列、思い入れ等の違いを認識したしたいです。私たちの未来に繋ぐという共通の理念にコンセンサスを得るのは困難な道のりが伴うと思っていますが、このような講座で歴史を知り知識を深めていくことは大切だと感じました。 参加者は学生さんが半数を占め、若い世代に関心が高いということで、未来に希望を持てると確信するしたいです。 (50代)</p> <p>●3時間があっという間に過ぎてしまうぐらい充実した内容でした。ドイツ人は法的責任は無くとも道義的責任を言うとの事と、解決したとは誰が決めるのか、加害者ではなく被害者が決めるという事をお聞きして心から納得しました。(60代)</p> <p>●ナチスに対して厳格な態度が共通認識となっているドイツでも、そこまでの歴史認識に至るまでには紆余曲折があったことを知り、日本においても参考となる点が大いにあるように感じた。(20代)</p> <p>●専門家による深い研究と洞察、問題提起は教育現場に立つものに、あらためて真実な歴史を伝える責任を認識させるものでした。このような企画を感謝します。(50代)</p>
--	---

### 3-2-36 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む③ふりかえり対話

開催日時	2020/11/1(日)
内容	3-2-35 のあとで、参加者同士で対話をしながらふりかえる時間を設けた。
会場	オンライン zoom ミーティング
対象/参加人数	3-2-35 の参加者の中から希望者/30名

### 3-2-37 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む④ オンライン歴史さんぽ～フランクフルト編

開催日時	2020/11/21(土)20:00 – 22:00
経緯	3-2-32 参照
内容	<p>在独30年の歴史家・教育者であり『忘却に抵抗するドイツ』ご著者の岡裕人さんにフランクフルトの街中に点在するナチ時代、ホロコーストの様々な記念碑についてご講演いただいた。</p> <p>【プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①アンネ・ Frank ゆかりの地</li> <li>②80年代に発掘された遺跡</li> <li>③世界遺産になった「裁判」</li> <li>④欧州中央銀行の地下の秘密</li> </ul>
会場	オンライン zoom ウェビナー
講師	岡裕人さん、『忘却に抵抗するドイツ』著者、フランクフルト在住
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/82名
参加者アンケートより	<p>●ドイツの「記録」に対する緻密さに驚くと共に、過ちと正面から向き合う姿勢に感銘を受けました。zoom で自宅から参加する事ができ子供と楽しむ事ができました。(40代)</p> <p>●旅行の気分も味わいながら歴史の勉強をさせていただきました。広場の名前が変えられた歴史も教訓として残そうとするドイツの人びと。なぜ日本でそれができないのかと悔しくさえあります。岡さんのガイドはわかりやすく臨場感たっぷりでした。(60代)</p> <p>●大変に実りの多い夜でした。真新しい欧州中央銀行の地下に、あのような過去が眠っていたとは驚きです。貴重なお話を伺えて、感謝しています。(50代)</p> <p>●記憶の継承のための模索が続いているドイツのことを知れば知るほど、日本とのこの違いは何なのかと思わざるを得ません。一人でも多くの人たちが知ることで、未来への勇気とヒントをもらえたたらと心より願っています。(60代)</p>

### 3-2-38 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む⑤

朗読劇『追究－アウシュヴィツの歌』より ペーター・ヴァイス作 岩淵達治訳

開催日時	2020/11/29(日)13:00 – 14:00
経緯	3-2-32 参照
内容	1963年、フランクフルト。戦後ドイツの歴史認識を変えたとも言われる「アウシュヴィッツ裁判」。敗戦から十数年がたち、経済も持ち直してきた西ドイツで、「過去を暴くな」という声もあがる中、裁判は始まった。自らの手で、自分たちの国の犯罪に向き合い裁こうとしてきたドイツ。戦後75年の2020年、20代の役者たちがアウシュヴィッツ裁判で語られた言葉と向き合い朗読劇に取り組んだ。
会場	オンライン Youtube ライブ配信
キャスト	池田紫陽、石川湖太朗、遠藤広太、遠藤真結子、小黒沙耶、西村優子、松本征樹、山岡彰斗
スタッフ	構成 いずみ凜、演出 大谷賢治郎、制作協力 田辺素子、制作 石岡史子
対象/参加人数	Kokoro会員および興味のある方はどなたでも/151名
参加費	無料、寄付チケット1,000円
参加者アンケート より	<p>●政治を自分に関係ないこととして捉えがちな自分達も、他人事ではないなと感じました。(20代)</p> <p>●被告が言っていた「知らなかった」というような言葉は、自分たちも発したことがあるような言葉ですよね、というようなことをおっしゃられていて、ハッとした。私はこの時代の話を読んだり聞いたりするとき、ナチ側の人間の話になると、自分がこの環境に置かれたとき、こうならない自信がないなと思うのですが、今生きているこの時代でも、そういう可能性はあるのだということに気付かされました。常に考えることをやめてはいけないなと思います。(20代)</p> <p>●今日の配信をみて、感じたこと、今の政治のこと、本当はこうなった方がいい社会になると思いつつも「きっと誰かがやってくれる」「私が今の生活を犠牲にしてまで動く必要はない」と、明日からも今日までと変わらない毎日を過ごす。今まで、ぬるま湯のような幸せが続くのかなんてわからないのに。あくまで〈傍観者〉でいる自分も、時代が違えば立派な被告人なのではないかと、とても怖くなりました。ここまで気付いていても、まだ、何も行動を起こせないです。(20代)</p> <p>●全く過去の話とは思えなかった。そういう社会、団体に属しているのは自分かもしれないという危機感が増し、沈黙を強いることは自由や人権、民主主義を簡単に破壊するんだなと感じた。(30代)</p> <p>●法廷を傍聴しているような感覚で画面越しであることが、かえって効果的でおもしろい作品に仕上がっていったように感じました。大谷賢治郎さんの演出、とてもよかったです。一人で受け止めるにはあまりにも重いものがありました。アフタートークでは役者さんたちのこの作品への取り組みや想い等を聞くことで、自分の中でもようやく反芻できたように思います。先日うかがったドイツ各地で行われている「政治演劇フェスティバル」のようなものを日本で開催するときには、今回のような作品の上演&amp;アフタートークをやれたらいいですね。そういう意味でも、未来につながる実験になったのではないかでしょうか。コロナが落ち着いたら、全国各地でこの作品が上演され、アフターには参加者がリアルに語り合えたらいですね。改めて、言葉の力、演劇の可能性を感じました。演劇で「市民」を育む、次の一步を。(60代)</p>
映像記録制作	映像①「あなたにとって歴史を知るって、どういうことですか 朗読劇に取り組んだ20代の役者たち8名に「歴史」について今回考えたことを一言ずつ語ってもらい、映像記録を制作し、YouTubeで公開した。 【視聴用リンク】 <a href="https://youtu.be/G2_goAeytac">https://youtu.be/G2_goAeytac</a>

### 3-2-39 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む⑤ふりかえり対話

開催日時	2020/11/29(日)14:30 – 16:30
内容	3-2-38 の上演後に、キャストとスタッフによるアフタートークを実施した。参加者を交えた質疑応答も行った。
会場	オンライン zoom ミーティング
パネリスト	3-2-38 のキャストおよびスタッフ
参加者	50 名

### 3-2-40 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む⑥

#### 21世紀における歴史の継承と挑戦 THE LEADS ASIA 共催

開催日時	2020/12/4(金)20:00 – 22:00	
経緯	3-2-32 参照	
内容	第6回は THE LEADS ASIA(TLA)との共催で、共同設立者の佐々木彩乃さんと神山かおりさんの司会進行で実施。TLA は建設的な対話の場づくりを目指してアジアの若者たちが設立した NGO。ゲストには、ナチズム「運動発祥の地」という歴史を持つミュンヘンのナチドキュメントセンターからミリアム・ザドフ館長を迎えて、同センターの紹介および現代アートを取り入れた企画展についてご講演いただいた。	
会場	オンライン zoom ウェビナー	
講師	ミリアム・ザドフさん、ミュンヘンナチドキュメントセンター館長、ドイツ	
対象/参加人数	Kokoro 会員および TLA メンバー、一般参加者、200名	
参加費	無料	日英逐次通訳
参加者アンケートより	<p>●アートやモニュメントを絡ませながら多角的な視点をもって歴史保存を行なっている。伝え方が大事であるとつくづく思った。(20代)</p> <p>●質問タイムがとても充実していた。今までの私は、日本とドイツを敗戦国として一括りにしがちでした。しかしこの講演を聞いて、ドイツ国内での取り組みや認識を詳しく知ることができ、日本はどうなんだろう、足りないところは何だろうと考える足掛かりになりました。(20代)</p> <p>●大学で美学美術史や博物館学を学んできましたが、ミュージアムが主体的に社会にどう良い影響を与えるのか、具体的に把握することはなかなか難しいものがあります。ですが、今回のイベントでミュージアムの役割は必ずあることを再確認できて自信になりました。また、自分のなかで現在のミュージアムの課題についても見つけることができました。とても面白かったです。(20代)</p> <p>●歴史教育の文脈だと日本ではよくドイツが「優等生」として紹介されることが多いので、実際にドイツ人の博物館の館長から話を聞ける機会は貴重だった。(20代)</p> <p>●THE LEADS ASIA のメンバーの方たちも、ご自分の意見をはっきり持ちながら、(講師の)お話を傾聴する姿が印象的でした。そういう意味でも、とてもよいコラボレーションだったと思います。通訳の方は、ほんとうにすばらしかったです。ホロコースト教育資料センターの活動は、今年の1月にゲーテ・インスティトゥート東京で行われた「アウシュヴィッツ解放75周年」の催しで、初めて知りました。今後の皆様のご活動を応援いたします。(60代)</p>	
映像記録制作	<p>映像②「あなたにとって歴史を知るって、どういうことですか</p> <p>共催団体の THE LEADS ASIA 共同代表設立者の神山かおりさんと佐々木彩乃さんに、事業開催後の感想や、歴史を知ることについて、また今後の TLA の展望などを語っていただき、映像記録を制作して、YouTube で公開した。</p> <p>【視聴用リンク】 <a href="https://youtu.be/V8Hqiy8kofQ">https://youtu.be/V8Hqiy8kofQ</a></p>	

### 3-2-41 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む⑥ふりかえり対話

開催日時	2020/12/4(金)22:00 – 23:00
会場	オンライン zoom ミーティング
司会進行	神山かおりさん、佐々木彩乃さん、THE LEADS ASIA 共同設立者
参加者	一般参加者、50名

### 3-2-42 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む⑦最終回

#### 記憶 – 共に生きる未来のために～ドイツ人にとっての「被害」の語りから考える

開催日時	2020/12/26(土)20:00 – 22:00
内容	第二次大戦末期、ドイツ東部や東欧の地域から、そこに暮らすドイツ系住民が強制的に移住させられた。その中で約200万人のドイツ人が死亡した。最終回はこの「追放」の歴史について東京大学准教授の川喜田敦子さんにご講演いただいた。自国の「加害」に向き合ってきたドイツで、「被害」はどのように語られてきたのか、現在の難民問題等とどのように位置づけられているのか解説していただいた。
会場	オンライン zoom ウェビナー
講師	川喜田敦子さん、東京大学准教授
ゲスト	三沢亜紀さん、満蒙開拓平和記念館事務局長 フックス真理子さん
参加者	Kokoro会員および興味のある方はどなたでも/109名
参加費	1,000円 学生無料
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「記憶の文化を育む」オンライン講座シリーズで、いろんな側面からドイツの過去の記憶との対話を学ぶことができました。これからも続けてください。(50代)</li> <li>●パネリストが途中から増えたり減ったり、参加者がさまざまな国に住んでいたり、オンラインならではの素晴らしい講演でした。(20代)</li> <li>●今、このような時代だからこそ、歴史について改めて問い直し、未来を考えるというのはとても重要なことだと思いました。(20代)</li> <li>●ドイツの歴史というと、まず加害としての戦争責任を考えがちですが、「追放」という被害の歴史に焦点を当てたお話に大変興味を持ちました。また獨一波の共通歴史教科書の取り組みについても、実際に地図や教科書のコメントを紹介していただき、とても分かりやすかったです。(50代)</li> <li>●歴史学の実証研究の成果に圧倒されました。「追放」のなかで性被害にあった女性の問題などについても、お聞きしたいです。満蒙開拓平和記念館が招待された「追放」の経験者の方のお話、交流の様子などもおうかがいできたことも大変興味深かったです。いろいろな活動をされている方達と繋がっていらっしゃる石岡さんがコーディネイトされたからならではですね。「記憶の文化を育む」7回すべてに参加させていただきましたが、どれも示唆に富んでいて、大変勉強になりました。毎回参加される若い人たちが増えてきているようで、それも大きな希望ですね。ドイツ政府の支援はこれで終わるのかもしれません、今後も回数を減らしても、オンライン講座を続けていただけたら有難いです。大きな拍手を送らせていただきます。(60代)</li> <li>●『追放』について、日本ではあまり知られていません。ドイツがそれを現在の問題としてとらえかえしているの知り感動しました。(60代)</li> <li>●ドイツ・ポーランドの歴史教科書対話の中で問題だったのはドイツ側の被害だったというのはなるほどと思いました。同時にポーランド側はどう加害に向き合うのかを突き付けられたということでもあるのですね。1時間があつという間でした。歴史にどう向き合うか、考えさせられる貴重な時間でした。(50代)</li> </ul>

映像記録制作	<p>映像③「あなたにとって歴史を知るって、どういうことですか</p> <p>8/9 開催の読書会(3-2-22)に学生パネリストとして登壇し、「記憶の文化を育む」シリーズも聴講してくれた大学生 3 名、奥川稀理さん、西山花音さん、深田莉映さんは、2021 年夏に有志と共に期間限定のピースミュージアム(仮名)の企画を始めている。本事業への参加の感想や歴史を知ることについて語っていただき、映像記録を制作して、YouTube で公開した。</p> <p>【視聴用リンク】 <a href="https://youtu.be/V8Hqiy8kofQ">https://youtu.be/V8Hqiy8kofQ</a></p>
--------	---

### 3-2-43 ホロコースト国際デー2021

#### 南アフリカのホロコースト教育～「シンドラーのリスト」生還者二世の挑戦

開催日時	2020/1/27(水)19:30 – 21:30	
経緯	<p>国連はアウシュヴィッツが解放された 1 月 27 日を「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」と定め、加盟国に対して、国や民族、信仰の違いを超えて、この歴史を教育の場で取り上げることをよびかけている(2005 年国連総会決議)。2015 年より毎年 Kokoro でも、この時期に歴史を学び考えるイベントを開催している。2021 年は開催第 7 回目として計画した。</p>	
内容	<p>南アフリカでは、2005 年からホロコースト史の授業が高校の必修科目になっている。ヨハネスブルクホロコーストジェノサイドセンターの館長タリ・ネイツさんをゲスト講師に迎え、南アフリカにおけるホロコースト教育について、またネイツさんご自身の父と叔父がオスカー・シンドラーに助けられたという家族の体験についてご講演いただいた。</p> <p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>開会メッセージ ヤッファ・ベンアリ大使、イスラエル大使館 イナ・レーペル大使、ドイツ連邦共和国大使館 パヴェウ・ミレフスキ大使、ポーランド共和国大使館(録画メッセージ)</li> <li>ゲスト講演：タリ・ネイツ館長 南アフリカのホロコースト教育～「シンドラーのリスト」生還者二世の挑戦</li> <li>質疑応答</li> </ol>	
ゲスト	タリ・ネイツさん、ヨハネスブルクホロコーストジェノサイドセンター館長	
会場	オンライン zoom ウェビナー	
対象/参加人数	Kokoro 会員、興味のある方はどなたでも/139 名	
参加費	無料、寄付チケット 1,000 円	日英同時通訳つき
後援	イスラエル大使館、ドイツ連邦共和国大使館、ポーランド共和国大使館 国連ホロコーストと国連アウトリーチプログラム、ユネスコ、国連広報センター	
参加者アンケートより	<p>●全てが新鮮であった。ウェブ形式だが、登壇者の生き生きとしており、伝えたいという思いが非常に伝わってきた。</p> <p>●どの国にも触れられたくない過去があるし、それとどう取り組んでいくのか難しい問題だ。また過去をどこまで遡るべきなのかについても難しいと思った。でも、ネイツさんの、難しくても「決してあきらめてはいけない」という言葉が心に響いた。</p> <p>●ホロコーストやジェノサイドと聞くと、ついつい遠い国の話(=他人事)を思ってしまいがちですが、見えていないだけで、わたしたちの身近にも似たような出来事は残念ながら存在していると思います。お互いを尊重し、助け合う。そんな優しい世界が広がっていくように、暗い過去にもしっかりと目を向けて、同じ過ちを繰り返さないように次世代に繋げていくことが大切だと思いました。</p> <p>●ジェノサイドは白黒でなく時間をかけて向き合っていく問題だという点がとても腑に落ちました。</p> <p>●各地からの中継。まさに zoom の威力発揮という魅力ある講演会でした。コロナ</p>	

	<p>禍の中、若者教育の一環としても是非、今後も利用させていただければと思います。</p> <p>●南アフリカでなぜホロコースト教育が行われているのか、大変興味がありました。館長のタリ・ネイツさんのお話は、その疑問に十分にこたえてくださるものでした。講演会全体を通して、ルワンダの大虐殺、アパルトヘイト、そして関東大震災の朝鮮人虐殺・・・ホロコーストだけでなく、世界各国で起きたジェノサイドを、人類の負の歴史として改めて実感することができました。人間のつくる社会で起きる普遍的な問題として、世界的な視野で、この問題をとらえることの意義にも気づかせてもらいました。石岡さんがこれまでに作られてきた国際関名ネットワークがあればこそ実現した今回のイベントだったと思います。世界に眼を開かせていただき心より感謝申し上げます。</p>
--	--

### 3-2-44 ホロコースト国際デー2021

#### 高校生ワークショップ

開催日時	2021/1/30(土)19:00 – 21:00
経緯	前年に引き続き、学校の枠を超えて高校生同士で学び合う機会をつくる
会場	オンライン zoom ミーティング
参加者	高校生 32 名、引率の先生、大学生ファシリテーター12 名
参加費	無料
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問い合わせワークショップ</li> <li>・ドキュメンタリー上映</li> <li>・国連広報センター 佐藤桃子さんより国連事務総長ビデオメッセージ紹介</li> </ul>
参加者アンケートより	<p>●高校生になってもう一度歴史を振り返ると、昔とは少し違った感想を持つようになっていて自分でも驚いた。これは、ワークショップの前半に行った、質問作りやそれに対する変換が頭で働いて、主体的にアクティビティに参加するとともに、歴史にも自分からどうしてなのかと理由や原因に疑問を持てるようになったからだと考えた。</p> <p>●写真を見ながら、たくさんの質問を考えるという工程が面白かったです。質問を考えることがどのような意味を持つのか、始めはよく分からなかっただけれど、みんなと質問を共有することで、色々な観点から写真を見る事ができました。そのため写真から読み取れる事実だけでなく、なぜ差別は起きてしまうのか、私たちに何ができるのか、この写真の人は何を思っていたのかなど、本質的なことを考えられたと思う。</p> <p>●自分とは違う視点から物事を見てる人がいたり、違う言い方で上手に発表をしたい人がいて刺激を受けました。私はホロコーストについて中学、高校と勉強したことがあったのですが、南アフリカのビデオを見て衝撃を受けました。その人が持っている性的指向、宗教、容貌というその人自身のアイデンティティによって殺されることの恐ろしさを感じました。また、このパンデミックで再び世界中に差別が生まれています。ある特定の人達に自分の苦しみをぶつけるということが再燃しています。またジェノサイドが発生することにならないか心配です。ですが世界のことなんて自分には変えられないではなく自分の決断で変えていける、変えることが私たちの義務であることを理解し、過去を学び同じことを繰り返さないことを今回学びました。国連の方がおっしゃっていた「これは本当なの？なぜ？」、「この人の気持ちちは？」を常に考えることを忘れずにこれから過ごしたいです。</p> <p>●オンラインという形だったからこそ普段はなかなか話せない距離にいる学生達と意見を交換することが出来てとても楽しかったです。</p> <p>●全てが新鮮な体験だったので、時間が経つのがあっという間でした。</p> <p>●対面でディスカッションしているような有意義なものとなりました。今回学んだことを自分の中に収めておくだけではなく、まずは身近なところからそして SNSなどを通して将来的には世界へ発信していくこうと決めました。2 時間と言う短い時間ではありましたが、学びが多く、本当に参加して良かったと感じています。また、今回参</p>

	<p>加ていた同世代の高校生たちはどの方も平和実現について意識を高く持っていて、私にとってとても勉強になったし刺激をもらいました。今回私たちがこのワークショップに参加したように、まずは自分で世界情勢について知ろうとする意識が大切だと思います。行動に移すことで平和に一步近づくと思います。だから私はこれからも積極的に学びそして行動にうつそうと改めて感じました。</p> <p>●学校では自分の意見を言える授業や機会は無いので、今回のような同じ県だけではなく日本全国の高校生や大学生、大人の方と意見を出し合えてとてもいい経験になりました。</p>
--	---

### 3-2-45 問いづくり(QFT)ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」開催第1回目

開催日時	2021/2/26(金)20:00 – 22:30
内容	<p>4/15より継続して計12回開催してきたアクティブラーニングに、問い合わせ(QFT、Question Formulation Technique)という手法を追加して新たにプログラムを開発して実施した。ホロコーストの歴史を切り取った1枚の写真を教材にして、①質問をつくる ②質問を分類する ③質問を変換する ④質問を選ぶという4つのプロセスを通して、発散思考、収束思考、メタ認知思考という3つの思考力を育むことをねらいとしている。</p> <p>(参考図書"Make Just One Change: Teach Students to Ask Their Own Questions" Dan Rothstein他著、『たった一つを変えるだけークラスも教師も自立する「質問づくり』ダン・ロスステイン他著、新評論刊)</p>
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,500円
対象/参加人数	教育関係者、興味のある方はどなたでも/25名
参加者アンケートより	<p>●非常に有意義なワークショップでした。映像資料に関しても、その前にさまざまな疑問を出すことで自分の中に「下地」ができていたからこそ、集中して視聴することができました。毎度、唯一無二のセミナーを提供いただき感謝しています。</p> <p>●知識は全くなかったのですが、丁寧な解説のおかげで学びが深まりました。</p> <p>●主体的になれたことで、教育においてホロコーストをどのように次世代に伝えるか、人間の本質、歴史等をどのように考えてもらうか、考えるよいきっかけになった。</p> <p>●グループによって重要なと思う問い合わせの選び方が全然違っていたのが面白かったです。問い合わせは学習の重要な要素だと思います。</p> <p>●参加2回目です。zoom講座になってから参加しやすくなり、ありがとうございます。今回は子どもたちにどう身近に感じてもらうのかという私自身の課題に対し、手法のひとつが体験できて、とてもよかったです。</p> <p>●既習知識がないほうが自由に問い合わせに対して考えることができて、戦争体験がない人(私もそうですが)、平和学習に興味のない人、年代を問わずに参加の可能性を開いたのではないかと感じました。</p>

### 3-2-46 問いづくり(QFT)ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」開催第2回目

2021/2/27	2021/2/27(土)20:00 – 22:30
内容	3-2-45 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,500円
対象/参加人数	英語科の教育関係者、興味のある方はどなたでも/6名

### 3-2-47 問いづくり(QFT)ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」開催第3回目

開催日時	2021/3/19(金)20:00 – 22:30
内容	3-2-45 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,500 円
対象/参加人数	教育関係者/21 名
参加者アンケートより	<p>●1枚の写真から様々な問い合わせが生まれますね。敬礼されなかつた方の思いを想像し、その後のことを探りたいということからアウシュビツの核心へと学びが深まっていくと思います。</p> <p>●高校の現場では授業の中で「探究」を進めていくことが求められてきます。その時に、自ら「問い合わせ」を見つけ出すことが求められます。そういう意味で、この「QFT」は大変有効な方法だと思います。ですが、ワークショップの中でも話題になりましたが、問い合わせの「変換」の必要性はしばしば議論になります。私自身もまだ違和感が残っていますが、問い合わせを搔き立てることで「新たな問い合わせ」や「真の問い合わせ」に近づいたりすることもあります。なので、いまは頭の中では、そのような整理をしています。しかし、生徒は慣れていないのか、まだなかなかうまく問い合わせ立てることができません。やはり訓練が必要なのだと思います。また、今回は選ばれた写真が素晴らしいだったので、問い合わせも立てやすかったように思います。このような資料選び、資料探しも大事なポイントだと思いました。</p> <p>●問い合わせを持続することは学び続けることでもあると思い、激変していく時代においても、とても重要なことと感じました。</p>

### 3-2-49 オンライン版大学生ヨーロッパスタディツアー 三日間

開催日時	2021/3/24(水)18:30 – 20:30 1 日目 2021/3/26(金)18:30 – 21:00 2 日目 2021/3/27(土)18:30 – 21:00 3 日目
経緯	2015 年から大学生協と実施しているヨーロッパピーススタディツアーがコロナ禍で実施できなくなったため、オンラインで提供できるプログラムを企画した
内容	1 日目   オリエンテーション&ワークショップ「アウシュヴィツからの問い合わせ」 2 日目   ドイツ抵抗記念館ワークショップ 3 日目   カロルとアナの平和ラボ、インタビュー
会場	オンライン zoom ミーティング
参加費	3,500 円 (ゲスト講師および通訳者への謝礼を含む)
参加者	大学生 27 名
	<p>●色々な大学・興味関心のある学生たちと少しでも交流できたことは、自分にとっても刺激になってとても良かったです。(中略)今回登壇いただいたゲストの方々のメッセージで共通していたことは、「物事を 2 項対立で見ない」と言うことだと感じました。私も物事を多角的に見る努力を続けていきたいと思います。</p> <p>●すごく開かれた学習の場にする工夫がめちゃくちゃこなされていてすごいなと思いました。</p> <p>●問い合わせをたてると意識的にその問題について考えるようになり、現地の方のお話を聞く際も主体的に思考していけたと思います。</p> <p>●高校以降の世界史でもマクロの政局の視点から教えられることはあってもマクロの個人の活動に視点が据えられることはなく初めて知ることばかりでした。</p>

## 4 人権・平和教育に関する普及啓発事業

### 4-1. 「Kokoro 通信」(ニュースレター)

コロナ禍で事業をオンラインに移行するための準備に時間がかかったため Kokoro 通信(A4、8 ページ)が 1 月に遅れた。300 部発行し、会員を中心に、全国の教員・保護者・自治体を中心に配布した。

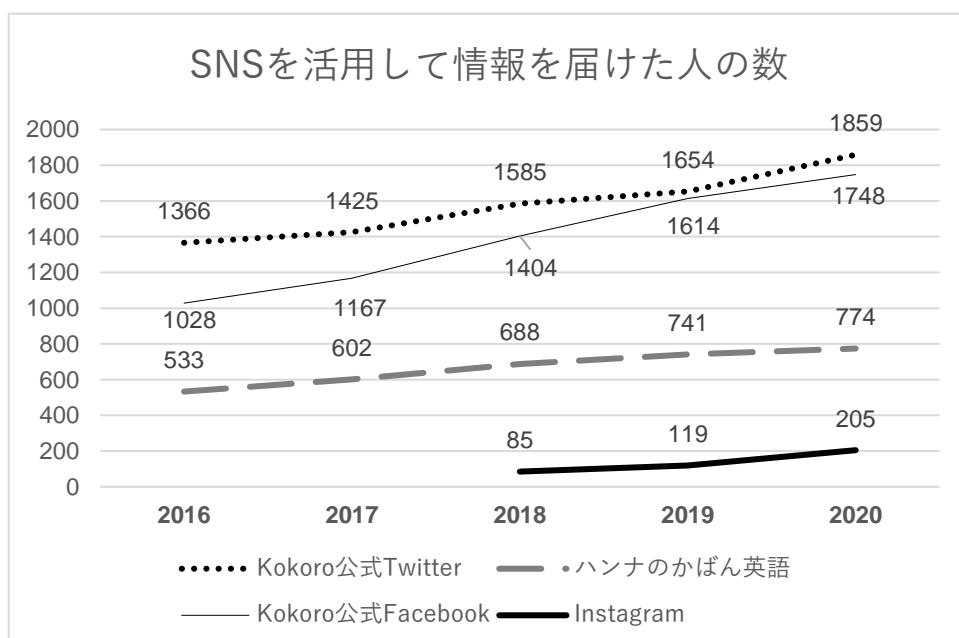
### 4-2. 「Kokoro メルマガ」の発行

Kokoro メルマガは、12 回発行した。イベント情報ほか様々な話題を合計 9,783 名にメールで提供した。いずれも、ホロコースト史を教材とした人権教育の意義や成果を分かりやすく伝え、理解してもらうための手段として発行した。

	号数	発行時期	タイトル	発行部数
1	87 号	2020/4/16	Kokoro オンライン講座	700
2	88 号	2020/4/23	『アンネの日記』読書会&ワークショップ	700
3	89 号	2020/5/19	アウシュヴィッツからの問い	700
4	90 号	2020/6/17	手紙を書く	700
5	91 号	2020/7/27	夏休み高校生・大学生企画	738
6	92 号	2020/9/9	記憶の文化を育む	738
7	93 号	2020/10/13	ベルリンと繋いでライブトーク	738
8	94 号	2020/10/23	人はなぜ記念碑をつくるのか	738
9	95 号	2020/11/19	20 代若者による朗読劇	796
10	96 号	2020/12/3	アジアの若者たちと初の共催	804
11	97 号	2020/12/23	共に生きる未来のために	804
12	98 号	2021/1/21	国連・国際デー	813
13	99 号	2020/2/23	問う力を育む	814

### 4-3. その他の SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を利用した情報発信

ブログやフェイスブック、ツイッターなどの SNS による定期的な情報発信を継続して行った。海外のニュースや歴史を身近に感じてもらえるような情報発信を心がけた。コロナ禍でイベント情報は SNS での広報が最も効果的だった。昨年より新しく YouTube でも Kokoro のチャンネルを開設し、映像記録の公開および広報動画の投稿をはじめた。



#### 4-4. メディア寄稿、取材

下記の雑誌、新聞、テレビで活動が取り上げられた。

1. 2020年11月26日	媒体   岐阜新聞
タイトル	アウシュビッツ裁判証言を朗読／29日、劇をライブ配信 岐阜市出身のいずみ凜さん構成
経緯・内容	ドイツ国際支援基金助成事業の一つとして11/29配信した「追究－アウシュビツの歌」の構成を担当していただいた脚本家のいずみ凜さんの紹介と告知記事
2. 2020年11月28日	媒体   毎日新聞
タイトル	アウシュビッツ裁判 朗読劇／無自覚に虐殺に加担した市民の姿描く／NPO・あす生配信 岐阜市出身・いずみ凜さん構成
経緯・内容	ドイツ国際支援基金助成事業の一つとして11/29配信した「追究－アウシュビツの歌」の構成を担当していただいた脚本家のいずみ凜さんの紹介と告知記事
3. 2020年12月7日	媒体   每日新聞
タイトル	支局長からの手紙／過去の罪
経緯・内容	朗読劇『追究 アウシュヴィツの歌』の配信を見ていただきコラムを掲載していただいた
4. 2020年12月29日	媒体   文化放送
タイトル	文化放送戦後75年企画 シリーズ～封印された真実 『ホロコースト零（ゼロ）地点～私は生き延びた』 ホスト アーサー・ビナードさん 出演 Kokoro代表・石岡史子
経緯・内容	Kokoroで取材をしてきた3人のホロコースト生還者を取り上げた番組 ・ヤーノシュ・ツェグレディさん ・モリース・チャンドラーさん ・サロモン・ペレルさん

岐阜市出身のいづみ凜さん構成  
20代の役者たちが向き合つた。う。

「退場」は強制・絶滅収容所の実態を明らかにした1960年代の「アウシュビツ・ツィン裁判」を描いたドキュメンタリー演劇作品。「命令に従つただけ」私語る監視側と、残酷な場を生き抜いた元収容者の証言が、舞台上で朗読する若手俳優8人か1時間にわたつてライブで朗読する。午後2時半から3時半まで、視聴者との対話を予定する。午後3時半からは、視聴者一人写真=岐阜市出身の脚本家いづみ凜さん写真=岐阜市出身の脚本家いづみ凜さん

主人公アーヴィング・カーネギーによるホロコースト掛ける朗読劇「追先」(アーヴィング・カーネギーの大量高熱)のシミュレーションが29日午後1時からオンラインで語られた観客の数々に無料配信される。ナチス・ドイツによるホロコースト教育費を負担するNPO法人ホロコースト教育費

西村優子、松本征樹、山岡彰斗、池田泰陽、石川湖太朗、遠藤広大、遠藤祐子、小熊弘記

29日、劇をライブ配信

岐阜市出身のいづみ凜さん構成  
20代の役者たちが向き合つた。う。

「退場」は強制・絶滅収容所の実態を明らかにした1960年代の「アウシュビツ・ツィン裁判」を描いたドキュメンタリー演劇作品。「命令に従つただけ」私語る監視側と、残酷な場を生き抜いた元収容者の証言が、舞台上で朗読する若手俳優8人か1時間にわたつてライブで朗読する。午後2時半から3時半まで、視聴者との対話を予定する。午後3時半からは、視聴者一人写真=岐阜市出身の脚本家いづみ凜さん写真=岐阜市出身の脚本家いづみ凜さん

主人公アーヴィング・カーネギーによるホロコースト掛ける朗読劇「追先」(アーヴィング・カーネギーの大量高熱)のシミュレーションが29日午後1時からオンラインで語られた観客の数々に無料配信される。ナチス・ドイツによるホロコースト教育費を負担するNPO法人ホロコースト教育費

西村優子、松本征樹、山岡彰斗、池田泰陽、石川湖太朗、遠藤広大、遠藤祐子、小熊弘記

29日、劇をライブ配信

# アウシュビッツ裁判朗読劇

NPO・あす生配信 岐阜市出身・いずみ凜さん構成



朗読劇「追究 アウシュヴィツの歌」のけいこをする俳優たち=東京都板橋区で（石岡史子さん提供）

無自覚に虐殺に加担した市民の姿描く

2020年11月28日  
毎日新聞

中国、イギリスにいる約120人が見ました。アウェシュピツツ強制収容所での組織的な虐殺に職務として加わった人たちを、ドイツ人自らが戦後に裁いた実際の法廷でのやりとりを再現した芝居です。

時間も設けられました。ホロコーストについて、小中学校で習い関心があつたという女性や、台本で初めて触れたと明かす男性もいました。しかし知識の量に関係なく、他国での過去の出来

## 過去の罪

人が過去に犯した過ち  
と思ふ人がいた」「考え  
続け、行動するきっかけ  
にしたい」  
彼らの言葉を書き留め  
たノートを見返し、「ド  
イツ」という言葉がほと  
んど発せられていない  
ことに気づきました。メ  
た。  
【花岡洋二】

支局長からのお手紙  
朗読劇「追憶 アウシ ュヴィツの歌」(ペータ・バイス原作)が先月末、東京のアトリエで、日本語で上演されました。20代の男女8人が演じました。公演後、俳優たちが感じた感想を、観客に語りました。

卷之三

2020年12月7日  
毎日新聞

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
① 教材の制作及び提供事業	ホロコーストの教材パネルやビデオの制作・貸出	0回	事務所	1名	0名	73,006
② 書籍・資料などの収集及び提供事業	SNSなどでのおすすめ図書の紹介	随時	事務所	1名	教育関係者、一般100名	91,418
	ブログ(登録1381冊)					
③ 講演会、セミナー等の開催事業	訪問授業および講演会	36回	小中高校、大学	7名	小中高校生、大学生、教員、保護者、一般7,200人以上	4,838,262
	NPO自主企画	50回	オンライン		2,113人	
④ 人権・平和教育に関する普及啓発事業	ニュースレター作成・配布	1回	事務所	2名	会員、教員、大学生、保護者など300名	697,312
	メールマガジン	13回		2名	9,783名	
	ホームページ、ブログ	随時		2名	不特定多数	
	メディア寄稿・出演	4回		1名	不特定多数	
	SNSツールの活用 ・Facebook ・Twitter ・Instagram ・YouTube	週3回		3名	34,747人～不特定多数	